

# グループホームかがやき

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	本社のグループとしての「慈愛の心・尊厳守る」と言う理念はあるが、かがやきとしての独自の理念は無い。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	本社理念をグループ全体で共有し、実践に向け日々努力している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	家族や、地域の人々にまだ取り組みは行っていない。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	毎朝玄関掃除や地域の行事の時などを利用し遊びに来てくださいと、お誘いしています。又、豚汁振る舞い会などを開催して地域の方に向けてホームの開放の行事を実施している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域交流食事会、町内会、老人会や地域行事への参加を通じ地元の人々との交流に努めている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会を開き取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする事により足りない事などの見直しをする事が出来ることを理解し居室や共用空間の環境づくりに努め和やかな雰囲気づくりをしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行った行事、今後の行事予定、今後の取り組み、事故、ヒヤリハット、サービスの実際、等の報告を行い、意見交換や、評価によりサービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話で相談したり指導を仰いだりはしているが運営推進委員会以外行き来の機会はない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施されていない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会開き理解を深め虐待についてのレポート提出により認識を高めている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明を行い、疑問点を尋ね理解、納得を図っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居者、ご家族様からの意見、苦情は、報告書にまとめ職員間で観覧し、改善に向けている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホーム新聞を作り、月1回後家族等へ郵送している。その他必要に応じ各担当者より連絡、報告を行っている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	来訪時に直接意見などをお聴きする事が多く、報告書に記入するようにしている。頂いたお言葉には直ぐに解決に向け話し合いを行なっている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	つき1回の職員会議や随時行なっているフロアー会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映できるよう本社へ働きかけている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	その都度行なっている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	本社による人事異動は避けられないが、かがやき内部での移動や離職は必要最小限に抑える努力をしている。ダメージを防ぐ配慮もしている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>応募者に対して採用対象から排除するような事はしていない。職員の持っている特技や能力を發揮できる空間や場所作りを行っている又、社会参加や自己実現に配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>取り組みを行なっている。毎日本社からの文書による人権尊重、人権教育が記載されている通達を全員が読み印を押している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人スタッフには2人でのトレーナー制度を導入し指導を行なっている。社内研修が定期的に行なわれており参加しやすく為のシフト調整を行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>自社グループでの交流は常にある。今のところ、交流の機会は無い。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>本社が月に1度の懇親会、誕生会を通じストレス軽減に向け取り組んでいる。又、リーダー、ホーム長、エリアマネージャー、本社かがやき担当と、職員が相談できる窓口を作っている。</p>		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日の日報を運営者は必ず見を通し、励ましのコメントなどを記入している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の利用者に対しては言葉がけをより多くし本人が話し始めるのを待ち話し始めたときはゆっくりと腰をすえてとことん傾聴するようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人とは別に時間をとり、お話を聴く機会を作っている。又、ご本人の為にも頻回に来訪していただけるようお話している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	もっとも必要なサービスからプランに入れ、ご本人、ご家族の支援が出来るように全職員で対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の好みや習慣などこまかい部分を理解し上でのサービスを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今まで生きてこられた経験をお聴きしたり、若い頃のお写真を見せていただいたりしてお互いに助け合いながら生活している。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の立場に立った視点より考え又、ご家族とお話するときは謙虚に接するようにしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症の方に対する接し方や声掛けの仕方などについてのアドバイスを行う。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状やお手紙を出したり電話をしたりして会いにいっている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室にこもらないよう声かけを行う。又、利用者様と居室へお尋ねする。フロアではお話が弾まれるようきっかけ作りを行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり、転居され契約終了された方のところへも行きたいと要望がでたときは積極的にお連れし楽しんでいただいている。又、いつでも来て頂ける様お伝えしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や得意な事や好きな物、嫌いな事などを把握し、好きな時に習字をしていただいたり、入浴していただいたり料理や買い物でお好きな物を選んでいただいたりお散歩などの時間を通じ個々にお話をさせていただき希望、意向の把握に努めている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、知人などからお話を聴き、その人らしくあるがままの生活が続けられるよう情報の収集に努め職員の周知に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ストレス状態、不安の強い時はコミュニケーションを多くし原因を探り解消に努めている。又、過度のサービスにならないよう有する力の維持に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族を交えてご本人やご家族の意見に重点を置き話し合いアイデアや意見を反映しご納得いただける介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	どんな事でも変化があればご家族へ連絡、報告を行い、話し合っている。又、転倒など起こった際には直ちに話し合いのばを儲け改善に向けた話し合いをし、現状に即した新たな計画をご家族などと共に作成に努めている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の会話、好み、しぐさ、行動、視線などを細かく記録し職員全員で共有し話し合いを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家庭で生活しているような自由な生活目指している。天気の良い日はドライブへお連れしたり24時間何時でも入浴できるような支援を心がけている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶のボランティアが月2回来訪されている。年2回消防署立会いで、利用者参加で行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、意向や必要性が発生していない。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2カ月1回、運営推進委員会へ来られている。権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、現在のところ必要性がない。必要性が発生時に協働していきたい。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度の訪問診療に来ていただいている。又、提携している総合救急病院が側にある。連携室との関わりを大切に築いている。本人、ご家族のかかりつけ医もあり自由に選択でき、安心して適切な医療を受けられるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の専門医にて診断をうけている。職員も必要に応じ同行し相談している。電話での相談にも快く答えてくれるような関係を築いている		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	自社グループ内の看護師やかかりつけ訪問看護師に気軽に相談でき支援に役立てている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時利用者が不安にならぬように努め、退院時にはカンファレンスを行い、情報交換を確実にしホーム側は万全な受け入れ態勢で利用者が安全、安心でいられるように迎えている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化、終末期の利用者は現在いない。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>まだ、かがやきでは事例がない。今後、検討や準備を進めていきたい。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご本人がグループホームから別の居所へ移り住む際、情報提供を行い、どんなに些細な情報でも提供するように努めている。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご本人には様付けを行い丁寧な言葉により尊厳を守っている。ご家族へいつでも見ていただけるような記録の内容及び取り扱いを行っている。</p>		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションの時間を多くとり、希望や要望を引き出すように努めている又、説明の必要なときは納得が得られるまでゆっくり話し本人決定を待つようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や得意な事や好きな物、好きな時に出来るよう支援している。習字をしていただいたり、入浴していただいたり料理や買い物でお好きな物を選んでいただいたりお散歩などの時間を通い個々にお話をさせていただき希望に添える様努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居されてからの行きつけや以前からの行きつけ等ご本人が希望された時は直ぐに電話にて予約しお連れする。美容室との近所づきあいも大切にしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の食べたい物をお聴きして1週間ごとのメニューを作り楽しく食事が出来るようにしている。又、台拭きをしていただいたり、下拵えを手伝っていただいたり、配膳をしていただいたり、洗い物など職員と行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人が望まれることに添える様、その都度お聴きしている。飲酒に関してはかかりつけ医やご家族に了解を得て楽しんでいただけるようは配慮し、支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。又、トイレに気持ちよく行けるよう花を置いたり飾りを工夫している。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お好きな時間にいつでも入浴できるよう支援している。又、イベント湯としてバラ湯、みかん湯、温泉湯などで入浴を楽しめるよう支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて好きな時に好きなようにその人らしくあれるよう自由に休息できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や特技を活かしお茶や習字や料理、お花など気晴らしの支援を行っている。又生きたい場所へ買い物に行ったりドライブへお連れしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に小銭を入れていただき近隣へのスーパーへの買い物、訪問パン屋さんでのパンの購入などを行っていただいている。小遣いの補充の申し出に希望に添いお渡ししている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声掛けやご本人の希望により散歩やドライブなど職員が付き添い支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月外食、外出レクリエーションを行っている。おしゃれを楽しまれ、毎回違ったいろいろな場所での食事やピクニックやレジャースポットへ出かける機会を作っている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出により電話をする事が出来るようご家族などに了解を得て申し出に応じられるようにしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	花や緑を飾り、好みの飲みものをお出ししている。又、イベントごとにご家族などへお知らせして参加をうながしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての入居者様が自由に過ごせなおかつ安全に過ごせる様日々のケアに対する改善をおこなう事により拘束をしないケアを実施している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけてほしいとの家族の要望もあるが自動ドア横の開錠、自動ドアに関しては、朝の玄関掃除時や園芸の時間、午後の短時間の開放と、玄関開放の時間を作る努力をしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間利用者様はフロアーや居室で過ごされる為、常に見守り、訪室にて安全確認を行っている。夜間は1時間おきの定期訪室により安全確認を行い様子を把握している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時にご家族へなじみのものを持ってきていただいている。又、居室に何を置いているのか、何処に置いてあるのかを把握しその使用状況などをチェックするようにしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した時は直ちに再発防止に向けた話し合いを実施している。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	実施していない。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防避難訓練を2ヶ月に1度行い、又、年に2度の消防署立会いでの訓練で指導を頂いている。日頃の交流の中で協力を得られるよう働きかけている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に居室内での転倒に対するご理解を得ている。又、起こりえたりリスクに対しては、当日または翌日にご家族を交えたサービス担当者会議を開催し今後の支援について話合っている。来訪できないご家族については電話での対応を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや、入浴時の身体観察などで体調の変化や身体の異常に気を配り、早期発見・早期対応に努めている。病院受診及びご家族への連絡に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の薬説情報をバインダーに綴じ、口頭、連絡ノート、申し送りにて確認を行いセンター方式へ記録している。又、ケア記録に症状の変化を記録し職員全員が変化の確認、把握に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別体操・毎朝のラジオ体操、散歩などで体を動かしていただいたり食事は繊維質のものを献立に取り入れている。便秘のひどい方に関しては服薬により排便コントロールをしている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後自立の方には口腔ケアの声掛けをし確認をする義歯は洗浄剤に入れて清潔保持に努めている。又、介助のほうは歯磨きなど口腔ケアを職員が行い支援している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は日々3食の摂取量を記録に残しその方に応じて分食して摂取していただいている。水分は毎食事時、午前、午後のおやつ時、又、入浴後、トイレ後、夜間、補水をしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防勉強会を行い職員全員にレポート提出により認識を高めマニュアルを作成しいつでも観覧できるようにしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具などは常に衛生管理を行っている。調理する利用者や職員の手洗い、消毒。又、食材については賞味期限にきをつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関廻り、建物の周囲に植木や季節の花を多く植えている。毎朝の玄関清掃や植木の水遣りなどで明るい雰囲気作りをしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての空間に花を飾り季節折々の手作りの折り紙や絵を飾っている。		

## グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーの食卓も気の合った方どうしが隣同士でお話ができるように居場所作りをしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が慣れ親しんだ家具や人形、備品などを置き安心して過ごせるようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝清掃時フロアーや居室の窓を開け換気に気を配っている居室の室温の調節も季節、内外の温度により調節を行い、又、その方の状況に応じて、その都度行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー居室の手すり以外に家具の配置などに気をつけ移動しやすく危険物を廃し通路に障害物を置かないようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとり自立した生活を頂いている。更衣、排泄、口腔ケア、食事、移動など生活の自立、又、料理や習字、花生けなど得意な事をしていただいている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物内外のお花の水やりを利用者様と楽しみながら共に行っている。		

## グループホームかがやき

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

## グループホームかがやき

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)